

第3章

計画の目標と環境都市の姿

第1節 計画の基本理念

第2節 計画の目標

第3節 環境都市の姿

第1節 計画の基本理念

(1) 基本理念について

基本計画に掲げた基本理念「みんなで築き 未来へつなげよう 環境都市 うつのみや」を本計画においても継承します。この基本理念は、平成15年2月に策定した「第1次宇都宮市環境基本計画」から引き継がれているものであり、21世紀半ばを展望した本市が目指すべき「環境都市」の姿を表しています。

みんなで築き 未来へつなげよう
環境都市 うつのみや

(2) 環境都市について

本市では、平成13年10月に施行した「宇都宮市環境基本条例」において、「環境都市」の実現を目指すこととしています。そして、「環境都市」とは、次の目標を達成した、環境にやさしいまちをいいます。

- ① 社会経済活動などによる環境への負荷を低減する。
- ② 限りある資源を循環できる社会への転換を図る。
- ③ 自然環境を保全し、人と自然とが共生する都市を形成する。

また、環境都市の実現に当たっては、地球温暖化や生物多様性の保全など、地球全体の環境の保全に貢献することを基本としています。

【基本理念のポイント】

「みんなで築き」

市民、事業者、行政による役割分担と相互協力で「環境都市」を築き上げることを意味しています。



「未来へつなげよう」

将来にわたって持続可能な都市を目指すことを意味しています。

～コラム～

「持続可能な都市」と私たちができること

1) 「持続可能な都市」とはどんなもの？

同じ地球に暮らす動物や植物などの生態系のしくみを壊さない範囲で、人々が豊かで快適に過ごせるよう、生活の質の向上を目指すまちをいいます。そのためには、利便性のみを追求するのではなく、私たちが消費している食べ物、電気やガソリンなどのエネルギー、さらには、排出しているごみにも目を向けて、その「消費」や「排出（廃棄）」が、将来の世代においても続けることができるかを考える必要があります。

2) 私たちができること

これまでの利便性を失うことと引き換えに、エネルギー消費を抑えることは難しいでしょう。では、利便性を保ちつつ、今よりも消費するエネルギーや廃棄するものを減らすためには、どのようなことができるでしょうか。

先進国である日本が、そして、環境都市を目指す本市が、率先して持続可能な都市に向けた取組を進めていく必要があります、こうした取組が SDGs の達成につながるのです。



食べ物を大切にする
(食品ロスの削減)



太陽光などの再生可能
エネルギーの利用



公共交通機関や電気自動車
などの積極的な利用



リサイクルやリユースなど
による資源の循環



天然林をはじめとした
自然の恵みへの感謝
(自然環境の保全)

第2節 計画の目標

上位計画である「第6次宇都宮市総合計画」との整合を図りつつ、基本理念に掲げた「環境都市」の実現に向けて、本計画の目標を以下のとおり定めます。

環境への負荷を低減する

第3節 環境都市の姿

21世紀半ばを展望した環境都市の姿である「みんなで築き 未来へつなげよう 環境都市 うつのみや」について、基本計画では、市民の暮らしの視点である「ひと」、まちの空間の視点である「まち」、暮らしや空間を支える仕組みの視点である「しくみ」の3つの視点で整理しています。そして、「もったいない」のこころやネットワーク型コンパクトシティなどを特徴とした環境都市の姿の実現に向けて施策・事業を推進してきました。

このような中、本市は、SDGsの理念などを踏まえ、令和2年3月に「環境未来都市 うつのみや」を目指すことを宣言しました。「環境未来都市」とは、次のような社会を実現した都市をいいます。

【環境未来都市】

- ① 地球温暖化の原因となる温室効果ガスを排出しない脱炭素社会
- ② 「もったいない」のこころでひとやものを大切にする循環型社会
- ③ 環境、経済、社会の統合的な向上が図られた持続可能なまち

環境都市の姿を更に発展的なものにすることによって、SDGsにも貢献する環境未来都市を目指すこととしたものです。この「環境未来都市」の実現に向けて、本計画では、環境都市の姿の見直しを行い、新たに環境未来都市の姿を明らかにしました。見直しに当たっては、基本計画を引き続き体系的に推進していく観点から、「ひと」、「まち」、「しくみ」の視点を踏襲しています。そして、本計画が推進すべき施策事業のあり方を明確にするため、21世紀半ばのまちのイメージを見据えつつ、本計画の目標年度である2025年頃のまちのイメージを明らかにしました。

基本計画において取り組んできた施策・事業について、これらのまちのイメージに向けた見直しを行うことで、環境未来都市の実現に向けて、体系的で実効性の高いものに再構築することが可能となります。

「基本計画」

【環境都市うつのみや】

- ① 環境への負荷の低減
- ② 資源を循環できる社会への転換
- ③ 人と自然との共生

【SDGs への貢献】

【環境未来都市 うつのみや】

- ① 脱炭素社会
- ② 循環型社会
- ③ 環境・経済・社会の統合的な向上



21 世紀半ばの環境未来都市の姿

みんなの「もったいない」のところが
循環型社会を構築し、自然とともに
生きる、脱炭素社会を実現した
スマートなコンパクトシティ

ひと

まち

しくみ

「ひと」の視点

SDGs と親和性の高い「もったいない」のところに加え「新しい生活様式」に基づく環境にやさしい行動の実践

「まち」の視点

ネットワーク型コンパクトシティの形成に加え、脱炭素社会の構築に向けたゼロ・カーボン・トランスポートなどの実現

「しくみ」の視点

地域資源の循環や自然との共生に加え、SDGs の考え方である様々な分野の課題の同時解決に向けた仕組みの構築

21 世紀半ばのまちのイメージ

【ひと】

みんなが「もったいない」の
ところ”を持って、自然を大切に
しながら、エコでスマートな
ライフスタイルを満喫できる
まち

【まち】

水と緑があふれる空間の中
に、様々な機能をもった拠点
が形成され、誰もがエコで健
康的に活動、移動できるコン
パクトなまち

【しくみ】

再生可能エネルギーと環境に
やさしい循環の仕組みが、地域
のつながりや経済・社会活動を
支えている持続可能なまち

2025 年頃のまちのイメージ

【ひと】

- ・ライフステージに応じた環境教育・環境学習により、環境配慮行動が実践されている。
- ・市民・事業者・行政の環境意識が高まり、各々が主体的に連携して実践行動に取り組んでいる。 など

【まち】

- ・歩きやすさの視点からまちづくりが行われ、車から徒歩や自転車への転換が促進されている。
- ・再生可能エネルギーを活用した LRT が運行し、市民に活用されている。 など

【しくみ】

- ・既存の設備やシステムを低炭素や脱炭素なものへ再構築する「グリーン・リカバリー」の促進により、SDGs に寄与している。
- ・地域循環共生圏の構築に向けた取組が始まっている。 など

21世紀半ばの環境面から見たまちのイメージ

環境配慮行動が定着し、
自然との共生が
実現している。



様々なコトがリモートで
快適にできる
ライフスタイルになっている。



公共交通ネットワークが
充実し、自動車からの
転換が進んでいる。



全ての家が災害にも強い
ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・
ハウス)になっている。

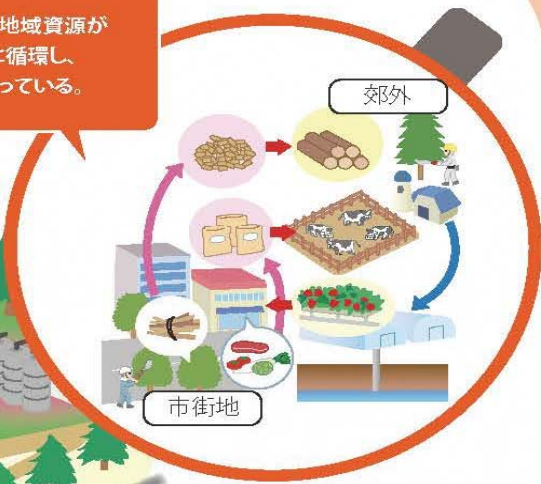


歩いて暮らせる
コンパクトなまちは、
自然が身近で、
にぎわっている。

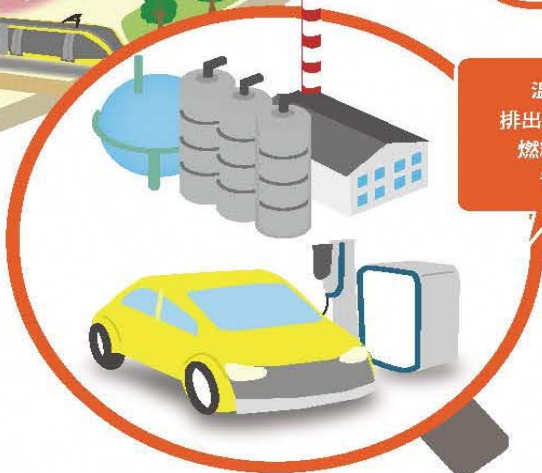




各拠点の地域資源が互いに循環し、支え合っている。



3Rの取組が広がり、プラスチックごみや食品ロスだけでなく、ごみの総量が削減されている。

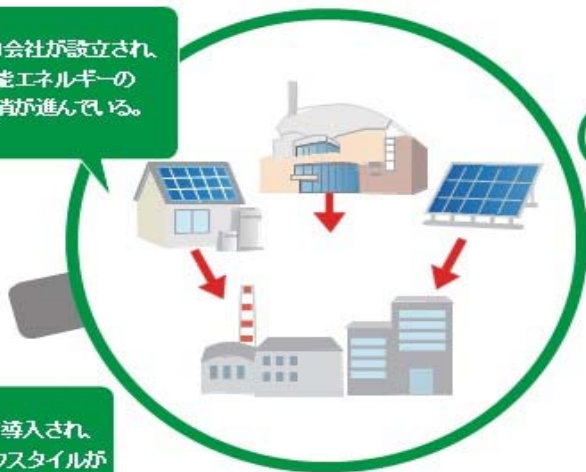


温室効果ガスを排出しない水素バスや燃料電池自動車が普及している。



2025年頃の環境面から見たまちのイメージ

地域新電力会社が設立され、再生可能エネルギーの地産地消が進んでいる。



ICTが積極的に導入され、エコで便利なライフスタイルが確立しつつある。



蓄電池の導入が進み、自立分散型エネルギーによる災害に強いエコな住環境や、電気自動車等の普及が進んでいる。



都市部や住宅街においても緑豊かな植栽等が施され、自然を身近に感じるまちづくりが行われている。



徒歩や
交通
自



徒歩や自転車も活用した公共交通ネットワークが構築され、自動車への依存が減少している。

ライフステージに応じた環境教育・環境学習により、環境配慮行動が実践されている。



再生可能エネルギーを活用したLRTが運行し、市民に活用されている。



3Rの取組が広がりをみせ、食品ロスの削減やごみの資源化量の拡大、分別率の向上がみられる。

～コラム～

宇都宮市もったいない運動市民会議の活動

1) 「宇都宮市もったいない運動市民会議」とはどんな組織？

◎設立の経緯

「あらゆる地球資源に対する尊敬・感謝」を含めた「ひとやものやまちを大切にすること」を基本とした様々な活動・取組を推進する本市独自の「もったいない運動」を広く普及させることを目的として、平成21年3月に「宇都宮市もったいない運動市民会議」を設立しました。

◎構成団体

市民に、ひと・もの・まちを大切にすることを心を持ち、日々の生活や事業活動を行ってもらう「もったいない運動」の普及を目指し、市民団体、企業、有識者、行政などの32団体で構成されています。

◎もったいないの約束（平成21年9月27日約束）



1. 私たちは、互いに尊敬し、思いやりをもってふれあいます。



2. 私たちは、すべてのものに感謝して、その価値を十分にいかします。



3. 私たちは、宇都宮の素晴らしさをみがき、未来に誇れるまちをつくりたい。

2) どんな活動をしているの？

ひと・もの・まちを大切に「もったいない」のこころを育むため、様々な活動をしています。

○ もったいないフェア宇都宮

「もったいない」を体験できる、環境配慮型・参加体験型の親子で楽しめるイベントを実施しています。

○ もったいない4コマまんがコンクール

身近で「もったいない」と感じていることや、実行していること、「もったいない」にまつわるエピソードなどを描いた「4コマまんが」を募集しています。

○ もったいないりぶつ

読み終わった本の寄付を受け付けています。寄付された本は専門の会社が買い取り、買取金は宇都宮市もったいない運動市民会議に寄付されます。

このほかにも、「もったいないAWARD」、「もったいない体操」などの取組を実施しています。

令和2年度「もったいない4コマまんがコンクール」
キッズの部 最優秀賞 横川東小学校4年
鈴木 香さんの作品

